

令和5年12月1日(金) 5校時
 児童数 27名
 指導者 小関 遼
 場所 2年4組教室

1 単元名 長いものの長さのたんい

2 指導計画

通常授業		濃縮授業	
時	学習のねらい	時	学習活動
1	長さの表す単位「メートル (m)」を知り、1m=100cmがわかる。	1	○両手を広げた長さをグループで測定する。 ・30cm 物差しをつぎたしながら測定し、 cm よりも長い単位が必要 であることを気付かせる。 ○1m=100cmであることを知る。
2	同じ長さを○m○cm と、○cm の両方で表すことができる。	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ○「測定活動」1m の量感をつかむ。グループで1m物差しを使って色々なものの長さを測定する。 ① 測るもの ② 長さの見当 ③ 測った長さ </div>	
3	「測定活動」1m の量感をつかむ。		
4	いかしてみよう		
5	「測定活動」3m の量感をつかむ。		
6	たしかめよう		
7	単元テスト	2	○1m=100cmであることを確認する。 ○1m物差しが何個分であるかに着目させ、520cmの表し方の図を電子黒板に写す。みさきさんの考え方をもとにまとめる。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 520cmの表し方 5m=500cm 500+20=520 </div> ・長さを表すには、 同じ単位どうしを足せる ことを、既習事項を用いて気付かせる。 ○同じ長さを○m○cm と、○cm の両方で表す練習問題を解く。
<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ① <ワークシート> </div>		3	○3mのテープ物差し作り ①1mのごとに赤い線で目盛りを書く ②10cmごとに青い線で目盛りを書く ○校内で測りたいものを見つけ、次の学習に繋げる。
<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> ② </div>		4	○「測定活動」3mの量感をつかむ。グループでテープ物差しを使って色々なものの長さを測定する。 ① 測るもの ② 長さの見当 ③ 測った長さ ④ 違い ・1mの量感を生かしながら、予想をすることを促す。 ・グループでは、長さを測る、目盛りを読む、記録する、という役割を交代しながら活動させる。 ○グループの測定結果を発表し、予想と結果について全体で話し合う。 ○校内にあるものの写真を教師が提示し、予想をたてさせてから答えさせ、まとめをする。
		5	○練習問題→計算ドリル→タブレット学習
		6	○単元テスト

<ワークシート>

「ながさしらべ」をする際に、書き込む。

- ①・・・1mものさし
- ④・・・3mものさし(本時)

2年 組 名前

長さしらべ

自分の手で、1mの高さや長さは、どのあたりかな?

先生は「()」の長さくわいだった

はかるもの	見当をつけた長さ	はかった長さ

2年 組 名前

長さしらべ

はかるもの	見当をつけた長さ	はかった長さ	はかり

かんたんでしゅう → ○ ○ ○ ○

びんしゅう → ☆ ☆ ☆ ☆

①

②

3 授業の意図

本単元では、身の回りのものの特長を長さに着目してとらえ、目的に応じた単位で長さを的確に表現できること、長さについての量の感覚を身につけ、生活や学習に活用しようとする態度を育てることがねらいとなる。

前期に学習した1 cm、1 mmの長さの単位、1dl、1lの水のかさの単位では、ノートの長さや牛乳の量等「だいたいこのくらい」という見当がつかない児童が多く、単元テストにおいても正答率が80%となった。




児童に長さなどについての量の感覚を身につけさせるためには、測定する体験を授業に取り入れ、さらに、「1 cm は爪の長さ」「10 cm は手のひらの長さ」「1 m は手を開いたより少し短い長さ」というように、体の一部等に関連づけながら見当をつけ測定していくことを繰り返すことが大切だと考える。

本時では、調べる長さの長いものに対しても、3mものさしや自分の体を使って実際の長さをイメージしていくことができるきっかけとなる時間にしたい。そして、生活で役立つ「量感」を子どもたちに身につけてほしい。

4 【事前の時間】★3mものさしをつくる

- 1 m の量感を自分の体をもとに確かめる。(手を広げたときの長さ、自分の肩までの高さなど)
- 測定活動の決まりの確認
グループ活動 ※全員が長さの見当をつける・長さを測る・目盛りを読む・記録する・役割を交代する
- 校内で測りたいもの(3mものさしを使って)を見つける。

5 <本時の展開>

学習活動	学習内容	指導上の留意点
① 1 m の量感を自分の体を使って表す。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 3mものさしをつかってはかりたいな! </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 m の量感を自分の体をもとにして表してみようと伝える。 ・ 教室内のものの長さ(黒板)が「どのくらいの長さ?」と問い、体を使って教師が測ることで、自分たちも1 m以上のものを測ってみたいという気持ちを高めさせる。
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> か 3 m のものさしをつかって、ものの長さをはかってみよう。 </div>		
② グループで測定活動をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 何mくらいなのかな? </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両手をひらいた自分が3つ分→3 m ・ 胸までの高さが2つ分→2 m 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで協力して校内の色々なものの長さを調べさせる。 ① 一人一人が見当をつけて測るようにさせる。 ② 「はかるもの・けんとう・長さ・ちがい」を記録させる。 ・ 見当をつける際に「1 m がこのくらいだから」と根拠を持って考えている児童を称賛する。 ・ 学力向上支援員の先生に測定場所を事前に伝え、児童の活動の様子を見たり、つぶやき等を聞いてもらったりし、担任と共有する。
【予想される測定場所】 ○廊下の壁(前扉から後ろ扉) ○職員玄関前の壁 ○中庭の滑り台、ジャングルジム等 ○体育館のマット		
③ 測定結果を発表する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 両手をひらいた自分が3つ分だから3 mくらいかなと思ったよ!! </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように見当をつけたか、実際にやってみようようにする。
④ まとめをし、ふり返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発言を生かしてまとめをする。
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> も ものの長さをはかるときは、けんとうをつけるとよい。 </div>		

☆ 評価

【思考力・判断力・表現力】 1 mの長さを活用して、見当をつけながら問題解決している。